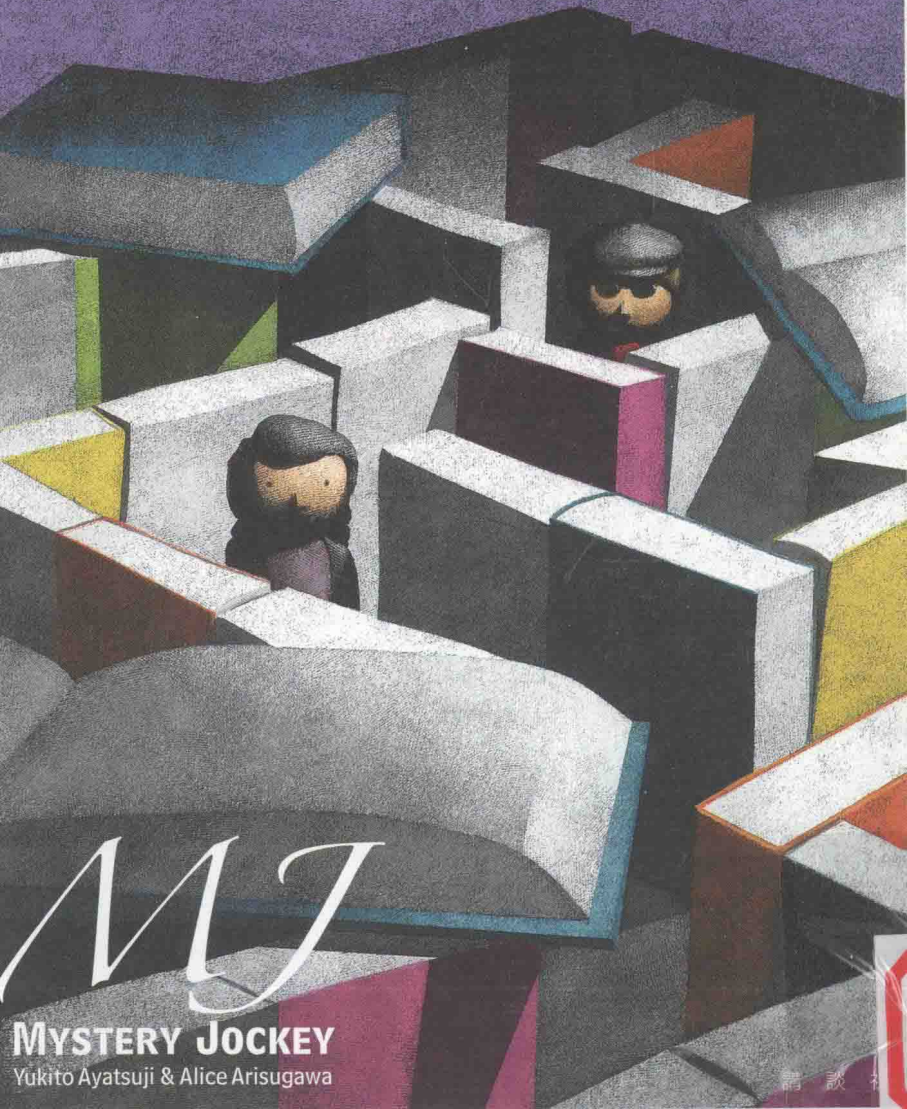
綾辻行人と有栖川有栖の

ミステリ・ジョッキー 3



MJ

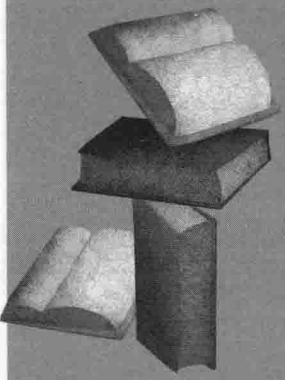
MYSTERY JOCKEY

Yukito Ayatsuji & Alice Arisugawa

講談社

栖川有栖の

ミステリ・ジョッキー 3



常州大学图书馆
藏书章

MJ

MYSTERY JOCKEY

Yukito Ayatsuji & Alice Arisugawa

MJ
MYSTERY JOCKEY

［初出］

第9回	プレ新本格、二人の女王（クイーン）	「メフィスト」2009年VOL.3
第10回	首切りと足切り	「メフィスト」2010年VOL.1
第11回	グロテスクなヴィジョン	「メフィスト」2011年VOL.1
最終回	ミステリとルール	「メフィスト」2011年VOL.2

綾辻行人（あやつじゆきと）と有栖川有栖（ありすがわありす）のミステリ・ジョッキー③

2012年4月25日第1刷発行

［編・著］綾辻行人（あやつじゆきと）＋有栖川有栖（ありすがわありす）

［発行者］鈴木哲

［発行所］株式会社講談社

〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21

電話［編集部］03-5395-3506

［販売部］03-5395-3622

［業務部］03-5395-3615

［ブックデザイン］坂野公一（welle design）

［装画］塩田雅紀

［本文データ制作］凸版印刷株式会社

［印刷所］凸版印刷株式会社

［製本所］株式会社国宝社

定価はカバーに表示してあります。

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは文芸図書第三出版部あてにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。

本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

©Yukito Ayatsuji, Alice Arisugawa 2012 Printed in Japan

N.D.C. 914 319p 19cm ISBN978-4-06-217531-9

JASRAC 出1200841-201

目次

まえがき◉綾辻行人 …… 006

第9回 プレ新本格、二人の女王（クイーン） …… 009

Disc 1 袋小路の死神 …… 013 栗本薫

Disc 2 虹への疾走 …… 046 山村美紗

第10回 首切りと足切り …… 085

Disc 3 秘密の庭 …… 089 G・K・チェスタトン 訳 中村保男

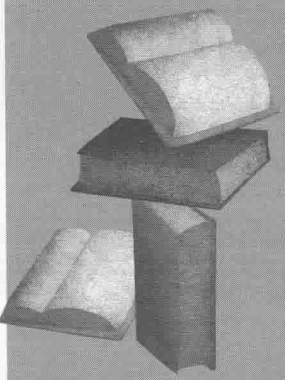
Disc 4 赤い靴 …… 121 山田風太郎

第11回 グロテスクなヴィジョン……157
Disc5 頭のなかの鐘 倉阪鬼一郎……160
Disc6 発狂する重役 島田荘司……182

最終回 ミステリとルール……227
Disc7 探偵小説十戒 ロナルド・A・ノックス 訳 宮脇孝雄・宮脇裕子……230
推理小説作法の二十則 ヴァン・ダイン 訳 井上勇……231
四つの黄金律 ディクスン・カー 訳 宇野利泰・永井淳……247
Disc8 薔薇荘殺人事件 鮎川哲也……255

あとがき◉有栖川有栖……316

有栖川有栖の ミステリ・ジョッキー 3



MJ

MYSTERY JOCKEY

Yukito Ayatsuji & Alice Arisugawa

目次

まえがき◉綾辻行人 …… 006

第9回 プレ新本格、二人の女王（クイーン） …… 009

Disc 1 袋小路の死神 …… 013 栗本薫

Disc 2 虹への疾走 …… 046 山村美紗

第10回 首切りと足切り …… 085

Disc 3 秘密の庭 …… 089 G・K・チェスタトン 訳 中村保男

Disc 4 赤い靴 …… 121 山田風太郎

MJ
MYSTERY JOCKEY

第11回 グロテスクなヴィジョン …… 157

Disc5 頭のなかの鐘 …… 倉阪鬼一郎 …… 160

Disc6 発狂する重役 …… 島田荘司 …… 182

最終回 ミステリとルール …… 227

Disc7 探偵小説十戒 …… ロナルド・A・ノックス 訳 宮脇孝雄・宮脇裕子 …… 230

推理小説作法の二十則 …… ヴァン・ダイン 訳 井上勇 …… 231

四つの黄金律 …… ディクスン・カー 訳 宇野利泰・永井淳 …… 247

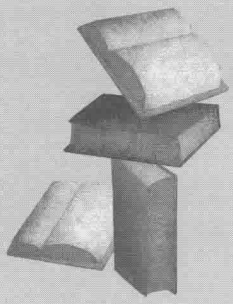
Disc8 薔薇荘殺人事件 …… 鮎川哲也 …… 255

あとがき◉有栖川有栖 …… 316

3

綾辻行人と有栖川有栖の

ミステリ・ジョッキー



MJ

MYSTERY JOCKEY

Yukito Ayatsuji & Alice Arisugawa

まえがき◉綾辻行人

盟友・有栖川有栖さんと二人して小説誌『メフィスト』誌上で続けてきた「ミステリ・ジョッキー」（略称ＭＪ）も、昨年八月刊行の号にて一応の最終回を迎えた。単行本もこの第三集で一応の最終刊、ということになる。

二〇〇七年の春から始まってまる四年、二度の休載を挟みながら計十二回におよぶ連載だったが、毎回じつに楽しく有意義な時間を持つことができた。この素敵な企画を発案し、パートナーとして僕を指名してくださった有栖川さんには改めて感謝したい。おつきあいいただいた読者のみなさまにも、もちろん。

「第三集」なので不要かとも思うのだけれど、念のためにやはり、簡単に能書きを示しておくのが「まえがき」の務めだろう。

「ミステリ・ジョッキー」は有栖川さんと綾辻による「ＤＪ（ディスク・ジョッキー）風対談＆アンソロジー」である。二人のおしゃべりの合間に、ラジオのＤＪなら「では、ここで一曲」

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

となるところを、「では、ここで一本」と短編ミステリを紹介する。それを読んでいただいたあとで、通常の対談などであれば安易に触れられないその作品の核心部（トリックや事件の真相、等々）にも踏み込んで具体的に言及しつつ、ああだこうだとミステリ談義・小説談義を繰り広げてみよう。――という趣向。

おそらくこれはかつて例のない試みで、幸いにもおおむね好評をもって迎えられたもようである。

さて、本書『ＭＪ３』には、『メフィスト』２００９年ＶＯＬ．３に掲載された第９回から同２０１１年ＶＯＬ．２掲載の第12回＝最終回までが収録されている。

第一集では、「それぞれの〝ふるさと〟」から始めて「ミステリとマジック」「ミステリとパズル」というふうに、わりあい教科書的なテーマを設定して回を重ねた。第二集ではそれをいくぶん軌道修正しながら、怪談や幻想小説を取り上げたり、「オドロキとナルホド」と題して叙述トリック論議をしたり、ゲストに北村薫さんをお招きして「アンソロジストの愉しみ」を語り合ったり、という広がりを持たせてみた。続くこの第三集を振り返ると、第９回では栗本薫と山村美紗を並べて語り、第10回ではチェスタトンと山田風太郎の名作を、第11回では倉阪鬼一郎と島田荘司の異色作を、といった具合に話題を膨らませていった末、最後は自分たちの足場を確かめる意味合いも込めて「ミステリとルール」で締めくくっている。

三冊を通してのこうした流れを見るにつけ、結果的に「アンソロジー」としてもちょっと珍しい、面白い作品の並びができあがったのではないかと思う。

ところでMJ連載中の四年間、一貫して僕の心にあったのは、多くの先達への尽きることないリスペクトだった。これはきっと有栖川さんも同じだと思う。

ミステリというジャンル（とりわけ「本格ミステリ」と呼ばれるサブジャンル）は、数多の先人によって産み出された膨大な作品の積み重ねの上に成り立っている。それらの先行作をすべて把握し、踏まえたうえで同時代の作品を読んだり実作に取り組んだりすることは現実問題としては不可能だけれど、できれば必要最低限の名作・基準作のたぐいは押さえておきたい。――と云っても、ではいったい何をもって「必要最低限」と考えれば良いのか。何を当たればそれが分かるのか。これはこれでなかなかに悩ましい問題である。インターネット上に無数の（得てして玉石混淆の）情報が溢れ返っている昨今の状況だが、こういう状況であるがゆえにかえって、という見方もできるだろう。

今回の僕たちの試みが、この問題の解決にも多少は役立ってくれれば、と願う。

なお、これもお約束の説明になってしまうが――。

第一集、第二集と同じく本書でも、対談中に出てくる実在人物名については、初出に＊を添えて各章末にささやかな註釈を付してある。あるレベル以上の愛好家にとってはおおかた不要なものかもしれないが、そうじゃない向きは参考にしていただいて、各々の楽しみの幅を広げていってください。

（二〇一二年二月某日、記す）

第9回

プレ新本格、二人の女王（クイーン）

Disc 1 袋小路の死神

Disc 2 虹への疾走

栗本薫

山村美紗

MJ

MYSTERY JOCKEY

Yukito Ayatsuji & Alice Arisugawa

綾辻　さてさて、綾辻行人と有栖川有栖の「ミステリ・ジョッキー」、今回で第9回になりますが……あ、有栖川さん、今日はお疲れさまです。

有栖川　いやあ、お疲れさまでした。

綾辻　なぜ「お疲れさま」なのかというと、実はついさっきまで第19回鮎川哲也賞の授賞式があって……。

有栖川　そのパーティのあとに。

綾辻　MJをやりましょうか、という流れになったんですね。

有栖川　忙しい一日です。

綾辻　鮎川賞のパーティは毎年、なんだか新本格の同窓会みたいでもあって楽しいよね。今ごろはまだ、大勢の作家が場所を移して歓談しているんでしょうねえ。

有栖川　そんなときにMJを敢行するというのもまた良し、ということで。

綾辻　――ということで。

有栖川　毎回、次は何をテキストに語ろうかと事前に打ち合わせをしますが、今回は綾辻さんのほうから、ぜひ栗本薫さんの作品を取り上げたいとリクエストがありました。

綾辻　はい。栗本薫さんはご存じのとおり、中島梓名義で評論家としても活躍されていた、大変な人気作家で、僕も学生のころからファンだったんですが、残念なことに今年（二〇〇九年）五月、五十六歳の若さでお亡くなりになってしまい……。

有栖川　綾辻さんは『ミステリマガジン』に追悼文を寄せていましたね。

綾辻　個人的にも少し、おつきあいがあったものですから。麻雀の大会で何度か同卓したことがあったりもして……。

ところで、栗本薫といえばやはりまず「グイン・サーガ」の作者として語られる。百巻を優に超えるあの、世界最長の大河小説をライフワーク的に書いてこられたんだから当然なんですが、そうすると肩書にはまず「SF作家」と付くんですね。夏には『SFマガジン』と『ミステリマガジン』の両方で追悼特集が組まれましたが、『SFマガ

ジン』のほうの大特集に比べて、『ミステリマガジン』のほうは僕と日下三蔵さんが文章を寄せていただけで、それがちょっと寂しかったりもして。

有栖川　ミステリサイド、本格サイドの人間として寂しかった。

綾辻　そうです。「グイン」も好きだけれど、僕としてはミステリ作家、それも本格ミステリ作家としての栗本薫にも強い思い入れがあって。そこで、MJでぜひ、栗本さんの話をしておきたいなと考えたわけです。

有栖川　栗本さんは、作家としては一九七八年に『ぼくらの時代』で第24回江戸川乱歩賞を受賞してデビューされました。当時、二十五歳。

綾辻　『ぼくらの時代』はリアルタイムで読みました。僕が高三のとき。あれはやっぱり本格ミステリだよね。

有栖川　うん、あれは本格でしょう。異論はありません。

綾辻　文句をつけるミステリマニアは多いみたいだけど、僕はとても好きなんですよね、『ぼくらの時代』に始まって『ぼくらの気持』『ぼくらの世界』と続く三部作。デビュー直後には『幻影城』で『絃の聖域』の連載を始められて、これは『幻影城』が廃刊になったあと、『小説現代』に発表誌を移して完結したんでしたね。この作品でさっそうと登場したのが名探偵・伊集院大介だった。

有栖川　ここでチェックポイントをひとつ指摘しましょう。昨今、本格ミステリの作家は自前の名探偵キャラクターを持っていて当たり前と思われていますが、当時はそうでもなかった。

綾辻　特に明智小五郎や金田一耕助の直系的な、いかにも名探偵です、という感じの私立探偵、素人探偵を活躍させるのは、決して主流じゃなかったですね。まだ島田荘司さんもデビュー前で、御手洗潔もいなかった。そんな時期に登場した伊集院大介には、僕なんかはやはり大喜びしたものです。

有栖川　栗本さんはそういう名探偵が活躍するミステリが好きで、ご本人が読みたいから書いた。そういうのが流行っている流行っていないを度外視

して。

綾辻　だったんでしょうね。それが栗本さんの創作の基本姿勢だったんだと思います。

さて、そこで今回は、名探偵・伊集院大介シリーズの第一短編集『伊集院大介の冒険』から一本、お送りすることにしました。おっ、これは親本が講談社ノベルスだったんですねえ。――では、では、そのなかから「袋小路の死神」という作品をお読みください。雑誌発表は一九八一年、『小説新潮』六月号です。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo